



## 重点実施項目 (国交省告示第1366号)

### 危険物を運搬する場合に 留意すべき事項

危険物の事故被害の大きさを理解しよう



#### ■危険物を積載した車両には思いやり運転を

危険物を積載した大型タンクローリーなどは、液体の揺れによる「振動現象」の影響で、急ハンドルや急ブレーキ時に車体が不安定になりやすく、重大事故につながる危険があります。

特に、



急な割り込み

無理な進路変更

車間距離不足

前方への急な割り込みや無理な進路変更は絶対によめましょう!

自車が接触しなくても、周囲を巻き込む大事故を誘発する恐れがあります。お互いにゆとりある運転を心掛けましょう。



#### 停止線で止まらない車の危険

自車が交差点を通過するとき、交差車両と出会い頭に衝突する危険性が高くなります。停止線で止まらない車は自分の危険があることに気づかず、自転車などが来ていると、慌ててブレーキを踏むケースもあります。

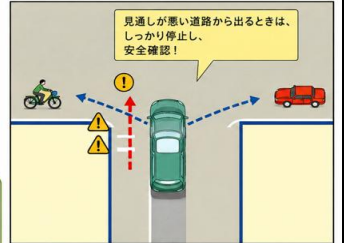
ある調査で、交差点の見通しが良い場合は、こうした行動でも交通事故に至る割合は低減しますが、住宅街などの見通しが悪い道路に出るときには、大きく一時停止線でしっかり停止することが大切です。



#### POINT

その後、ソロソロと徐行で進んで自車の視線をまず交差道路の自転車や車に向けず。それから安全を確認をしていかないと、最初に出会う自転車・バイクや歩行者と事故を起こす危険があります。

- ❗ 停止線で停止
- ⚠ 見通しを悪くする要因
- ➡ 交通事故の危険性が高い!



#### 右折時に、直進してくる二輪車を見落とさない

交差点で右折四輪車と直進二輪車が衝突する、いわゆる「右直事故」が後を絶ちません。



その理由としては、

- ✓ 二輪車は車体が小さく目立たない
  - ✓ 車体が小さく、遠くにいるように見える
  - ✓ 二輪車の速度を遅く感じる
- といったことが挙げられます。



四輪車で交差点を右折する際には、直進する二輪車の存在を意識して探すとともに、速度や距離の錯覚に注意して、直進二輪車の通過を待つように習慣づけましょう。



「かもしれない運転」で、あなたと大切な人の命を守りましょう。



#### 冠水した道路には進入しない!

JAFが行ったテストでは、水深30センチの冠水路は走行できたものの、水深が60センチになると、途中でエンジンが止まってしまいました。



このように、一般的に、車の床面が浸からない程度が走行可能な水深とされており、それを越えるとエンジンの吸気系に水が入り、動けなくなります。



冠水した道路は安易に進入せず、引き返しましょう。



濁った水では水深を予測することは困難です。自分や大切な人の命を守るためにも、安全なルートを選びましょう。

#### 覚えておきたいポイント

- 水深の目安：車の床面が浸かると危険!
- 水深60cm：エンジン停止のリスク大!
- 無理な進入は禁物! 安全第一で行動を!

日頃から気象情報や道路情報を確認し、早めの行動を心がけましょう。



# 一品一心

One Item, One Soul.

**30 速度**  
社・法定速度を守る

**車間距離**  
車間距離を充分に空ける

**バック時**  
バック時は降りて確認

# ”3箇条厳守”



株式会社スタンダード運輸  
株式会社茨運 スズ工電機株式会社



